

オンライン
展覧会
Online
Exhibition

生活を感じる、
おもしろい作品が生まれた。
1946-2024

折
元
立
身



上:アトリエ前の折元立身 1970年代 下:《ラーメンをかぶる》2023年

2024年3月1日(金) 10:00 ~ 2024年3月29日(金) 15:00

本展は川崎市市民ミュージアムWebサイト内「the 3rd Area of "C"—3つめのミュージアム—」でご覧いただけます(無料)
<https://www.kawasaki-museum.jp/thirdarea/>



主催:川崎市市民ミュージアム 企画:ART-MAMA FOUNDATION

協力:深川雅文(キュレーター/クリティック)、東海大学ティーチングクオリフィケーションセンター、東海大学松前記念館

問い合わせ先:川崎市市民ミュージアム TEL 044-712-2800(土日祝を除く8:30~17:15) FAX 044-712-2804 25museum@city.kawasaki.jp



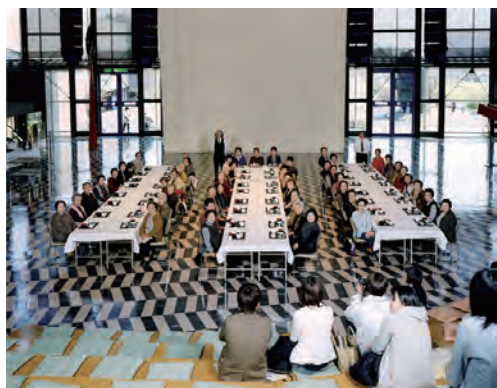


1

- 1.《無題(パン)》制作年不詳
- 2.《50人のおばあさん》2006年
- 3.《ラーメンをかぶる》2023年
- 4.「フルクサス クロック」(1974年)会場にて



3



2

折元立身

生活を感じる、おもしろい作品が生まれた。
1946-2024

折元立身は川崎市在住の現代美術家です。アーティストを志して渡ったニューヨークでは、棚から落ちて砕け散った破片を繋ぎ合わせて《皿時計》(1971)を制作します。帰国後もパフォーマンスや映像、ドローイングなどの発表を続け、国際的な評価を高めてきました。

半世紀にわたる作家の活動の根底にあるのは、生きることへの自問自答といえるでしょう。かたちあるものはいずれ朽ちて失われる定めにあります。あるいは災禍によって、一瞬で破壊されることもあります。生きることの喜びと苦しみは、誰もが生涯抱き続けなければなりません。折元もまた、コロナ禍を経て、逃れられない運命や自身の老いに向き合い、新たな境地を切り拓いてゆくことになりました。

本展では、新作のパフォーマンス《ラーメンをかぶる》を公開します。災害によって閉ざされ、役割を終えつつある空間に、折元は佇みます。目の前で繰り広げられる暴力的とも思える出来事に、ある人は困惑し、目を背けるかもしれません。しかしそれでもなお、その作品は、この世界に生きてゆくことは何か?という根源的な問いを、見る者へ投げかけ続けるのです。

第1章 浪人時代——パンとおふくろ(1946-1968)

第2章 アメリカ時代——カルフォルニアからニューヨークへ(1969-1977)

第3章 帰国——パフォーマンス・アートの実験(1977-)

第4章 パフォーマンス《ラーメンをかぶる》(2023)

折元立身 TATSUMI ORIMOTO

1946年生まれ。「フルクサス クロック」展(ニューヨーク、1974)、「第49回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展」(イタリア、2001)、「第1回横浜トリエンナーレ」(神奈川、2001)など多数の展覧会に参加。川崎市市民ミュージアムでは2016年に回顧展「生きるアート 折元立身」を開催した。



4

◎ 関連イベント [視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ]

目の見える人と見ええない人が一緒に展覧会の作品を鑑賞するワークショップを、オンライン形式で開催します。本展出品作品を数点取り上げ、参加者全員とナビゲーターが気づいた点や気になったところを話しながらかん賞します。
※ナビゲーターおよび職員による詳しい作品解説は行いません。

日時:2024年3月20日(水・祝) 14:00~16:00

開催方法:オンライン(Zoomを使用したグループ鑑賞)

対象:障害の有無に関わらず、どなたでも ※Zoomが使用できる方

定員:7名(保護者や介護者との参加可、申込時に備考欄にご記入ください)

参加費:無料(通信にかかる費用は参加者負担)

申込方法:Webページの申込フォームから・事前申込制

申込期間:2024年2月26日(月)10:00~3月11日(月)16:00

※申込多数の場合は抽選、当選者のみに3月14日(木)までにメールで連絡

協力:視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ

詳細・申込はこちら▼ ※当イベントは内容が変更になります。詳細はWebページを御覧ください。

